

■ 構成市消防団関係状況

令和5年4月1日 現在

市町 区分		観音寺市		市町 区分		三豊市		合計
		人員	報酬			人員	報酬	
条例定員		713		条例定員		1,091		1,804 人
計		665		計		1,054		1,719 人
実員	団長	1	180,000	団長	1	178,000		2 人
	副団長	4	160,000	副団長	2	103,000		6 人
	方面隊長	8	120,000	方面隊長	7	96,000		15 人
				副方面隊長	7	89,000		7 人
	分団長	22	90,000	分団長	36	82,000		58 人
	副分団長	22	60,000	副分団長	44	61,000		66 人
	部長	32	44,000	部長	75	43,000		107 人
	班長	105	40,000	班長	163	39,000		268 人
	団員	471	36,500	団員	719	36,500		1,190 人
	人員の状況等	水火災	4時間以内 4,000円 4時間を超える時は、4時間以内ごとに4,000円を加算。		水火災	2時間未満 2,500 2時間以上4時間未満 4,000 4時間以上8時間未満 8,000 (8時間以上のときは、1時間当たり1,000円を加算。)		
警戒			2,000	警戒		2,000		
訓練			2,000	訓練		2,000		
その他				その他	分団運営費 一人当たり年額 18,000 方面隊運営費 一人当たり年額 2,000			
ポンプ保有状況	消防ポンプ自動車		21	消防ポンプ自動車		23		44 台
	積載車		4	積載車		46		50 台
	小型動力ポンプ		27	小型動力ポンプ		48		75 台
分団数			22	分団数			36	58 分団

■消防団員の年齢状況

令和5年4月1日 現在

区分 分団別	定員	実員	年齢別										平均
			20歳未満	20	25	30	35	40	45	50	55	60歳以上	
観音寺市	713	665	0	17	42	90	114	120	123	88	49	22	42.3
三豊市	1,091	1,054	1	18	43	89	146	171	250	138	95	103	45.6
合計	1,804	1,719	1	35	85	179	260	291	373	226	144	125	44.3

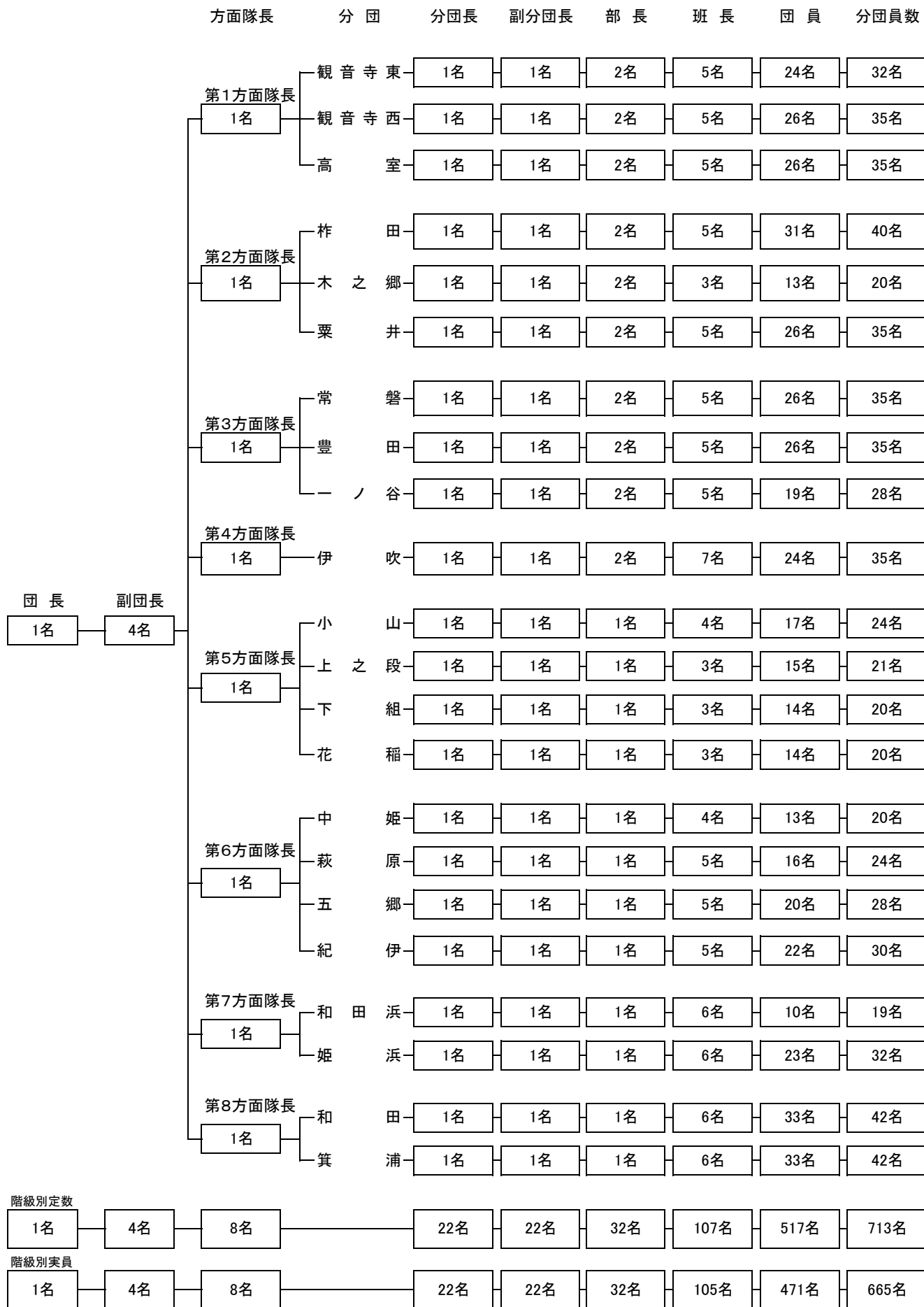
■消防団員の在職年数状況

令和5年4月1日 現在

区分 分団別	定員	実員	在職年数							平均
			5年未満	5	10	15	20	25	30年以上	
観音寺市	713	665	151	130	112	110	86	48	28	12.7
三豊市	1,091	1,054	181	183	192	176	151	88	83	14.5
合計	1,804	1,719	332	313	304	286	237	136	111	13.6

# ■ 観音寺市消防団組織

令和5年4月1日 現在



## ■観音寺市消防団管轄区域および保有資機材等

分 団 名	区 域	屯 所、器 具 庫 等	ポンプ車(台)	積載車(台)	可搬ポンプ(台)
団 本 部	市内全域	南消防署内		1	2
観 音 寺 分 団 西	観音寺町[三架橋(一部)、七間橋(一部)、中洲、中新、若宮、春日、大和(一部)、上若、蛭子、南]、有明町、昭和町二丁目(一部)、昭和町三丁目、南町一丁目、南町二丁目、南町三丁目、南町四丁目、南町五丁目、西本町一丁目、西本町二丁目、港町一丁目、港町二丁目、三本松町一丁目、三本松町二丁目、三本松町三丁目、三本松町四丁目、琴浪町一丁目、琴浪町二丁目、瀬戸町一丁目、瀬戸町二丁目、瀬戸町三丁目、瀬戸町四丁目、凧瀬町	鉄骨造2階建	1		1
観 音 寺 分 団 東	観音寺町[上市、川原、幸、明星、殿、中央、柳、青柳、三架橋(一部)、駅通、七間橋(一部)、大和(一部)]、茂木町一丁目、茂木町二丁目、茂木町三丁目、茂木町四丁目、茂木町五丁目、茂西町一丁目、茂西町二丁目、八幡町一丁目、八幡町二丁目、八幡町三丁目、天神町一丁目、天神町二丁目、天神町三丁目、坂本町一丁目、坂本町二丁目、坂本町三丁目、坂本町四丁目、坂本町五丁目、坂本町六丁目、坂本町七丁目、幸町、栄町一丁目、栄町二丁目、栄町三丁目、昭和町一丁目、昭和町二丁目(一部)	〃	1		1
高 室 分 団	室本町、高屋町	木造平屋建	1		1
柞 田 分 団	柞田町	鉄骨造2階建	1		1
木 之 郷 分 団	木之郷町	〃	1		1
粟 井 分 団	粟井町	〃	1		1
常 磐 分 団	流岡町、村黒町、植田町、出作町	〃	1		1
豊 田 分 団	池之尻町、新田町、原町	木造平屋建	1		1
一ノ谷分団	本大町、吉岡町、古川町、中田井町	鉄骨造2階建	1		1
伊 吹 分 団	伊吹町	鉄骨造平屋建		3 (軽特殊含む)	4
小 山 分 団	大野原町小山地区	鉄骨造2階建	1		1
上 之 段 分 団	〃 上之段地区	鉄骨ブロック造平屋建	1		1
下 組 分 団	〃 下組地区	鉄骨造2階建	1		1
花 稻 分 団	〃 花稲地区	鉄骨造平屋建	1		1
中 姫 分 団	〃 中姫地区	鉄骨造平屋建	1		1
萩 原 分 団	〃 萩原地区	木造平屋建	1		1
五 郷 分 団	〃 五郷地区	鉄骨造2階建	1		1
紀 伊 分 団	〃 紀伊地区	木造平屋建	1		1
和 田 浜 分 団	豊浜町和田浜地区	鉄骨ブロック造2階建	1		1
姫 浜 分 団	〃 姫浜地区	鉄骨造2階建	1		1
和 田 分 団	〃 和田地区	〃	1		1
箕 浦 分 団	〃 箕浦地区	〃	1		1
<b>計</b>			<b>21</b>	<b>4</b>	<b>27</b>

## 観音寺市消防団の沿革

平成17年10月11日、観音寺市、三豊郡大野原町及び三豊郡豊浜町が市町合併し、新たに「観音寺市」を設置する。それに伴い、観音寺市消防団、大野原町消防団及び豊浜町消防団を統合し、新たに「観音寺市消防団」を設置する。

- 平成17年 10月11日 市町合併に伴い、新たに「観音寺市消防団」となり、組織は8方面隊23分団、定員735人とする  
初代団長 近藤辰一
- 12月10日 日本消防協会長より表彰旗を受賞
- 平成18年 9月17日 香川県消防操法大会において和田分団がポンプ車の部で出場し、優勝する
- 10月19日 第20回全国消防操法大会において柞田分団がポンプ車の部で出場し、総合10位優秀賞を受賞する
- 平成19年 5月21日 近藤辰一団長が、香川県消防協会会長に就任
- 9月16日 香川県消防操法大会において上之段分団が小型ポンプの部で出場し、優秀賞を受賞する
- 10月25日 小山分団にモリタ式CD-1型消防ポンプ車を新規更新する
- 平成20年 3月 7日 自治体消防制度60周年記念式典において日本消防協会長より竿頭綬を受賞する
- 3月19日 観音寺東分団、常磐分団、姫浜分団の各消防屯所を新築移転する
- 4月 1日 組織改編により統括副団長・指導部長の階級を廃止し、副団長・方面隊長体制とする
- 8月29日 紀伊分団にモリタ式CD-1型消防ポンプ車を新規更新する
- 9月14日 香川県消防操法大会において栗井分団がポンプ車の部で出場し、準優勝する
- 平成21年 3月26日 花稻分団の消防屯所を新築移転する
- 5月20日 近藤辰一団長が、香川県消防協会会長を退任
- 9月13日 香川県消防操法大会において五郷分団がポンプ車の部で出場し、優秀賞を受賞する
- 11月24日 観音寺西分団、上之段分団、姫浜分団にモリタ式CD-1型消防ポンプ車を新規更新する
- 平成22年 4月 1日 組織改編により本部分団を解散し、定員713人で編成する  
第2代団長 大西光雄
- 9月12日 香川県消防操法大会において木之郷分団がポンプ車の部で出場し、優秀賞を受賞する
- 9月17日 下組分団にモリタ式CD-1型消防ポンプ車を新規更新する
- 平成23年 9月11日 香川県消防操法大会において和田浜分団がポンプ車の部で出場し、優勝する
- 9月13日 一ノ谷分団にモリタ式CD-1型消防ポンプ車を新規更新する
- 平成24年 9月 9日 香川県消防操法大会において小山分団がポンプ車の部で出場し、優秀賞を受賞する
- 9月12日 観音寺東分団にモリタ式CD-1型消防ポンプ車を新規更新する
- 平成25年 9月 8日 香川県消防操法大会において常磐分団がポンプ車の部で出場し、準優勝する
- 10月22日 大西光雄団長が、香川県消防協会会長に就任
- 11月 6日 豊田分団にモリタ式CD-1型消防ポンプ車を新規更新する

- 平成26年 3月20日 中姫分団の消防屯所を新築移転する  
9月14日 香川県消防操法大会において萩原分団が小型ポンプの部で出場し、優勝する
- 平成27年 2月 6日 花稲分団にモリタ式CD-1型消防ポンプ車を新規更新する  
2月16日 常磐分団に救助資機材搭載型消防ポンプ車(消防庁からの無償貸付車両)を新規更新する  
9月13日 香川県消防操法大会において豊田分団がポンプ車の部で出場し、準優勝する  
10月 1日 五郷分団の消防屯所を新築移転する
- 平成28年 4月 1日 伊吹防災センターを新築し、伊吹分団屯所がセンター内へ移転する  
9月18日 香川県消防操法大会において姫浜分団がポンプ車の部で出場し、優秀賞を受賞する  
9月16日 和田分団にモリタ式CD-1型消防ポンプ車を新規更新する  
12月28日 栗井分団の消防屯所を新築移転する
- 平成29年 3月 7日 日本消防協会定例表彰式において日本消防協会長より竿頭綬を受賞する  
3月 8日 消防功労者消防庁長官定例表彰式において消防庁長官より竿頭綬を受賞する(三観広域行政組合消防本部と連名)  
4月 1日 各方面隊の名称変更を行う  
第3代団長 田中 健一  
8月 3日 中姫分団にモリタ式CD-1型消防ポンプ車を新規更新する  
9月10日 香川県消防操法大会において下組分団がポンプ車の部で出場し、準優勝する  
11月 1日 下組分団の消防屯所を新築移転する
- 平成30年 7月27日 栗井分団にモリタ式CD-1型消防ポンプ車を新規更新する  
9月 9日 香川県消防操法大会において一ノ谷分団がポンプ車の部で出場し、優秀賞を受賞する
- 平成31年 2月 3日 柞田分団の消防屯所を新築移転する  
4月 1日 第4代団長 矢野 幹和
- 令和元年 9月 8日 香川県消防操法大会において中姫分団がポンプ車の部で出場し、優秀賞を受賞する  
9月27日 高室分団にモリタ式CD-1型消防ポンプ車を新規更新する
- 令和2年 2月14日 豊田分団の消防屯所を新築移転する  
12月11日 萩原分団の消防屯所を新築移転する  
12月15日 萩原分団にモリタ式CD-1型消防ポンプ車を新規更新する
- 令和3年 3月20日 柞田分団に救助資機材搭載型消防ポンプ車(消防庁からの無償貸付車両)を新規更新する
- 令和4年 5月31日 高室分団の消防屯所を新築移転する  
6月2日 香川県知事表彰 優良消防団表彰旗受賞
- 令和4年 11月25日 木之郷分団にモリタ式CD-1型消防ポンプ車を新規更新する
- 令和5年 2月14日 紀伊分団の消防屯所を新築移転する  
令和5年 4月1日 第5代団長 豊田 敏計

## 旧観音寺市消防団の沿革

本市の消防は、明治初期より各集落において消防の自主組織があり消火に従事していたが明治23年、町制施行と同時に義勇消防に代わり公設観音寺消防組を設置。

その後昭和14年の警防団への改組、さらに昭和22年勅令によって「消防団令」が施行され消防団として発足、その後合併等を経て現在に至っている。

寛延元年	観音寺村に大火、500戸が全焼す。
文化 4年	仮屋地区より出火、折からの季節風に町内九分通り焼失す。
慶応 2年	8月大洪水あり、被害甚大、世人寅年の大洪水と称す。
明治 6年	西讃竹槍騒動、寺院・庄屋等のめぼしい建物が焼き打ちさる。
明治10年	川北庄の合田為七が身内20名で火消愛宕組を組織し義勇消防が生まれた。
明治12年	加茂田地区の軽便連中により火消一心社が組織された。
明治23年	町制施行と同時に義勇消防に代わり公設観音寺消防組を設置。二分し、東部は人力車夫、西部は沖仲仕、各30名で組織す。
大正 8年	伊吹島に消防組と別に、火の元用心と出漁時の地区を守るため火防団(女子)が誕生した。
昭和14年 4月	警防団令の公布により消防組は解散し、新たに警防団を組織し消防業務の他、防空救護の業務を附加される。
昭和23年 3月	消防組織法が施行され、消防行政は従来の警察制度から分離独立し、警防団は廃止となり再び消防団として発足した。
昭和25年	国家消防庁より表彰を受ける。
昭和26年11月	四国地区で最初のジープ型消防車2台を購入。
昭和28年	国家消防本部長より優良消防団として竿頭授受賞。
昭和29年	日本消防協会長より優良消防団として竿頭授受賞。
昭和30年 1月	第一次合併が行われ(観音寺町・柞田・常磐・高室村)市制の施行と同時に1団7ヶ分団448名に編成をする。
1月 1日	初代団長 三宅 省一(前職、観音寺町消防団長)
3月	国家消防本部長より優良消防団として表彰旗受賞。
4月	第二次合併が行われ(豊田・栗井村・紀伊村の一部木之郷)1団10ヶ分団671名に編成替をする。
昭和31年 9月	第三次合併(一ノ谷・伊吹村)1団12ヶ分団705名に編成替をし第12分団(伊吹島)に女子団員40名を配置。
昭和32年 5月	香川県操法大会において、第7分団(高室)が手引の部で優勝。
昭和33年 9月	四国地区消防操法大会において、第7分団(高室)が準優勝。
昭和35年 4月	消防団組織改革を行い、1団10ヶ分団443名とする。 (内、伊吹女子消防団員20名)
昭和41年10月 1日	第2代団長 牧野 国光
昭和47年 4月	広域消防発足に伴い消防団事務を組合消防に委託する。
昭和48年 4月 1日	第3代団長 植松 利

昭和53年 5月 香川県知事より優良消防団として表彰旗受賞。

昭和56年 2月 日本消防協会長より優良消防団として表彰旗受賞。

昭和57年10月 第8回全国消防操法大会に第5分団(高室)出場する。

昭和58年 4月 1日 第4代団長 浜田 清

昭和59年 3月 消防庁長官より優良消防団として竿頭授受賞。

昭和62年 4月 1日 第5代団長 安藤 安雄

昭和63年 4月 消防団組織改編により本部分団を増設1団11ヶ分団  
370名で4方面隊制とする。

平成 2年 9月 香川県消防操法大会において栗井分団がポンプ車の部で準優勝。

平成 3年 4月 1日 第6代団長 高橋 努

平成 4年 4月 1日 消防団サイレン吹鳴装置運用開始。  
9月20日 香川県消防操法大会に伊吹分団女子団員が出場する。

平成 5年 2月16日 日本消防協会定例表彰式において、特別表彰「まとい」受賞。  
4月 1日 第7代団長 清水 宏郎  
7月 第48回国民体育大会に警備出場する。  
11月 自治体消防45周年記念大会参加。

平成 6年 2月 日本消防協会長より優良消防団として竿頭授受賞。  
9月18日 香川県消防操法大会において観西分団がポンプ車の部で優勝。

平成 7年 1月 1日 第8代団長 秋山 友義  
9月17日 香川県消防操法大会において高室分団がポンプ車の部で準優勝。

平成 9年 4月 1日 観音寺市防災行政無線運用開始。  
4月 1日 第9代団長 篠原昭元

平成10年 9月17日 香川県消防操法大会において栗井分団がポンプ車の部で準優勝。

平成11年 4月 1日 第10代団長 中塚 敏夫  
9月12日 香川県消防操法大会に常磐分団が出場する。

平成12年 9月10日 香川県消防操法大会において豊田分団がポンプ車の部で準優勝。

平成13年 4月 1日 第11代団長 近藤 辰一  
9月 9日 香川県消防操法大会において一ノ谷分団がポンプ車の部で準優勝。

平成14年 9月15日 香川県消防操法大会において伊吹分団女子部が小型ポンプの部で優秀賞及び特別表彰敢闘賞を受賞。

平成15年 5月23日 観音寺西分団屯所を防災基盤整備事業により観音寺西防災センターとして、観音寺市観音寺町甲 2579 番地 1 に新築移転(建築面積 55.0 m<sup>2</sup>・延べ面積 110.0 m<sup>2</sup>・敷地面積 561 m<sup>2</sup>)した。  
9月14日 香川県消防操法大会において観音寺東分団がポンプ車の部で準優勝。  
11月 自治体消防55周年記念大会参加

平成16年 9月12日 香川県消防操法大会において観音寺西分団がポンプ車の部で準優勝。

平成17年 9月18日 香川県消防操法大会において高室分団がポンプ車の部で優秀賞。  
10月11日 市町合併に伴い、観音寺市消防団、大野原町消防団、豊浜町消防団が合併し、観音寺市消防団となる。



## 旧大野原町消防団の沿革

昭和30年に大野原村は萩原村、五郷村と合併し、続いて紀伊村とも合併が成り大野原町となった。同時に消防団も合併の精神に則って団が結成され、571名となった。

翌昭和31年には、団員の減少による経費の節減を行い、消防機械導入により消防力を充実させるよう461名に整理し、機構改革を行った。

その後、社会の経済成長に伴って農村にも急激な変化が起こり、人口は減少傾向をたどり、在町消防団員も減少を見るに至った。

この事態を解消するため、昭和40年には当時の21ヶ分団461名を行政区画に合わせた8ヶ分団243名に、新しく編成替えを行い、消防の機動化を図ることとした。

さらに昭和44年に団員を193名に整理、この期昭和47年には消防団本部を設置し、役場消防隊7名を配置、さらに昭和50年には本部5名増強し、総勢205名として編成替えを完了し、現在の消防組織の基盤を確立した。

昭和22年 9月18日 初代団長 平田 庫太

昭和40年 2月 日本消防協会長より表彰旗受賞

昭和43年 4月 4日 第2代団長 小西 良隆

昭和51年 4月 4日 第3代団長 石川 弘

昭和56年 3月 消防庁長官より竿頭綬受賞

昭和58年 5月 香川県知事より表彰旗受賞

昭和59年 2月 日本消防協会より竿頭綬受賞

昭和61年 5月12日 第4代団長 福田 清孝

昭和63年 3月 消防庁長官より表彰旗受賞

平成 元年 5月 香川県知事より竿頭綬受賞

平成 2年 9月 香川県消防操法大会優勝

10月 第12回全国消防操法大会敢闘賞

平成 9年 2月 日本消防協会長より竿頭綬受賞

平成10年 4月 1日 第5代団長 守谷 彰介

平成11年 9月 香川県消防操法大会優勝

平成15年 3月 消防庁長官より地域活動表彰受賞

4月 1日 第6代団長 大西 俊一

平成17年 2月 消防庁長官より褒状受賞(台風第21号による災害)

10月11日 市町合併に伴い、観音寺市消防団、大野原町消防団、豊浜町消防団が合併し、観音寺市消防団となる。

## 旧豊浜町消防団の沿革

- 明治27年 公設姫之江村消防組を設置
- 明治32年 2月10日 町制施行により豊浜町消防組になる
- 昭和14年 4月 警防団令の公布により豊浜町警防団に改組
- 昭和22年 10月 消防団令の施行により豊浜町消防団に改組
- 昭和28年 2月11日 日本消防協会長より優良消防団として表彰旗受賞
- 昭和30年 4月 1日 町村合併により豊浜町消防団と和田村消防団が合併し、豊浜町消防団となり現在に至る。
- 初代団長 高森 菊太郎
- 昭和31年 3月 1日 消防庁長官より竿頭綬受賞  
香川県消防操法大会出場 優良賞受賞
- 12月26日 第2代団長 横内 勇三郎
- 昭和33年 3月 7日 消防庁長官より優良消防団として表彰旗受賞
- 昭和34年 12月26日 第3代団長 柴川 栄
- 昭和40年 12月26日 第4代団長 大廣 久市
- 昭和43年 12月26日 第5代団長 山口 元春
- 昭和45年 5月21日 香川県消防協会長より竿頭綬受賞
- 12月 1日 本部分団を設置し、役場団員14名を配備
- 昭和48年 12月 消防ポンプ自動車A - 1級を第3分団に配備
- 昭和49年 12月26日 第6代団長 宝田 昇
- 昭和50年 香川県消防操法大会出場 優良賞受賞
- 昭和51年 3月 3日 日本消防協会長より竿頭綬受賞
- 昭和52年 12月 消防ポンプ自動車A - 2級を第1分団に配備
- 12月26日 第7代団長 大廣 敏一
- 昭和53年 9月 可搬ポンプ積載車を本部分団に配備
- 昭和54年 3月 可搬ポンプB - 3級を第2分団に配備
- 昭和55年 香川県消防操法大会出場 優良賞受賞
- 昭和57年 5月29日 香川県知事より竿頭綬受賞
- 昭和58年 12月26日 第8代団長 合田 綾和
- 昭和60年 2月 2日 愛媛県川之江市より山林火災発生
- 箕浦地区町有林へ延焼 142ヘクター焼失
- 3月 可搬ポンプB - 3級を第1・第3・第4分団に配備  
香川県消防操法大会出場 優良賞受賞
- 11月 消防ポンプ自動車A - 2級を第2分団に配備
- 平成 元年 4月 可搬ポンプB - 3級を本部分団に配備
- 12月26日 第9代団長 横山 実雄
- 平成 2年 10月 消防ポンプ自動車A - 2級を第4分団に配備
- 平成 4年 10月 消防ポンプ自動車A - 2級を第3分団に配備
- 平成 5年 4月 1日 第10代団長 久保 彰市
- 平成 6年 2月15日 日本消防協会長より竿頭綬受賞
- 5月26日 香川県知事より竿頭綬受賞
- 5月26日 香川県消防協会長より竿頭綬受章(3年間無火災 第4分団)
- 8月 可搬ポンプ積載車を本部分団に配備
- 9月18日 香川県消防操法大会出場 優良賞受賞
- 平成 7年 1月 8日 三豊地区消防連合会会長より竿頭綬受賞(1年間無火災)
- 6月 6日 香川県消防協会長より竿頭綬受賞(3年間無火災 第3分団)
- 平成 8年 5月28日 香川県知事より優良消防団として表彰旗受賞
- 9月28日 消防ポンプ自動車A - 2級を第1分団に配備
- 平成11年 2月 9日 日本消防協会長より優良消防団として表彰旗受賞
- 4月 1日 第11代団長 佐野 清一
- 平成12年 1月10日 三豊地区消防連合会会長より竿頭綬受賞(1年間無火災)
- 2月18日 豊浜町箕浦魚見山山林火災発生  
箕浦地区の町有林など 70ヘクター焼失
- 平成14年 3月 6日 可搬ラビット消防ポンプP - 382Sを第2分団に配備

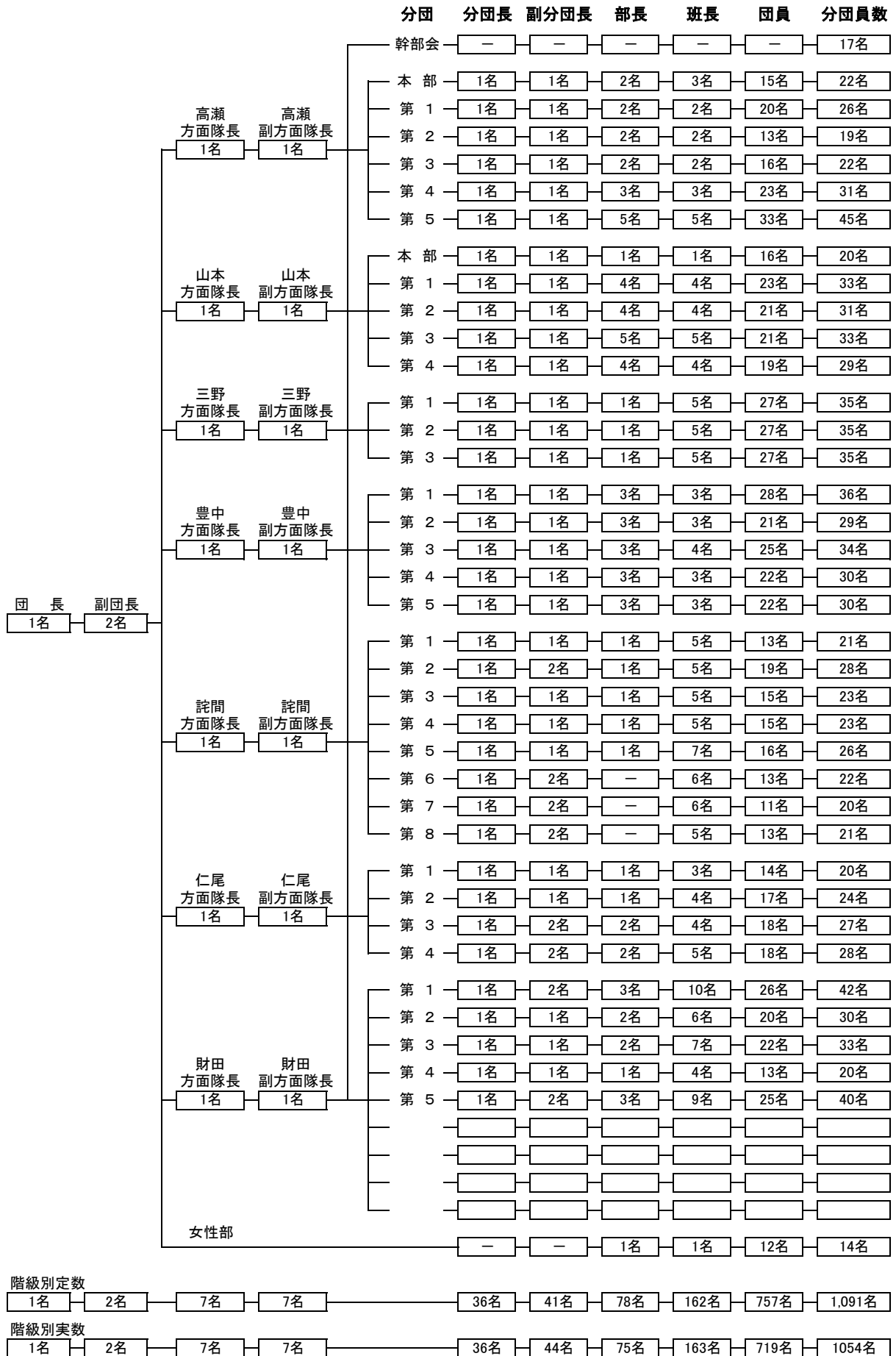
平成15年 9月14日 香川県消防操法大会出場 優勝

12月21日 モリタ式CD - 1型ポンプ車を第4分団に配備

12月24日 ホースカーを第2分団に配備

平成17年 4月1日 第12代団長 田中 健一

10月11日 市町合併に伴い、観音寺市消防団、大野原町消防団、豊浜町消防団が合併し、  
観音寺市消防団となる。



階級別定数

1名	2名	7名	7名	36名	41名	78名	162名	757名	1,091名
----	----	----	----	-----	-----	-----	------	------	--------

階級別実数

1名	2名	7名	7名	36名	44名	75名	163名	719名	1054名
----	----	----	----	-----	-----	-----	------	------	-------

NO	分団名	区域	屯所、器具庫等	ポンプ車 (台)	積載車 (台)	可搬ポン プ(台)
1	高瀬方面隊本部分団	高瀬町全域	鉄筋コンクリート	2		
2	高瀬方面隊第1分団	高瀬町上高瀬、高瀬町新名	鉄骨造 平屋		1	1
3	高瀬方面隊第2分団	高瀬町上勝間、高瀬町下勝間	鉄骨造 平屋		1	1
4	高瀬方面隊第3分団	高瀬町比地中、高瀬町比地	鉄骨造 平屋		1	1
5	高瀬方面隊第4分団	高瀬町佐股、高瀬町羽方	鉄骨造 平屋	1	2	2
6	高瀬方面隊第5分団	高瀬町上麻、高瀬町下麻、高瀬町上勝間	鉄骨造 平屋	1	3	3
7	山本方面隊本部分団	山本町全域	鉄骨造 二階	1		
8	山本方面隊第1分団	山本町辻	鉄骨造 平屋		2	2
9	山本方面隊第2分団1部	山本町長野	コンクリートブロック造		1	1
	山本方面隊第2分団2部	山本町上河内	鉄骨造 平屋		1	1
	山本方面隊第2分団3部	山本町中河内				
	山本方面隊第2分団4部	山本町下河内	木造		1	1
10	山本方面隊第3分団1部	山本町三側	コンクリートブロック造		1	1
	山本方面隊第3分団2部	山本町下大野	木造		1	1
	山本方面隊第3分団3部	山本町西光寺	コンクリートブロック造		1	1
	山本方面隊第3分団4部	山本町財田西(西上、西中)	〃		1	1
	山本方面隊第3分団5部	山本町財田西(庵上、庵下)	鉄骨造 平屋		1	1
11	山本方面隊第4分団1部	山本町川原、山本町岩瀬、山本町山才	コンクリートブロック造		1	1
	山本方面隊第4分団2部	山本町立石、山本町田ノ口、山本町土井	〃		1	1
	山本方面隊第4分団3部	山本町長瀬、山本町砂古、山本町中屋敷	〃		1	1
	山本方面隊第4分団4部	山本町大坪、山本町砂川、山本町大池	〃		1	1
12	三野方面隊第1分団	三野町大見	鉄骨ブロック 平屋 鉄骨造 二階(久保谷)	1	1	1
13	三野方面隊第2分団	三野町下高瀬	鉄骨造 平屋	1		
14	三野方面隊第3分団	三野町吉津	鉄骨造 平屋	1	1	1
15	豊中方面隊第1分団	豊中町桑山	鉄筋コンクリート 二階	1	2	2
16	豊中方面隊第2分団	豊中町比地大	鉄筋コンクリート 平屋	1		
17	豊中方面隊第3分団	豊中町笠田	〃	1		
18	豊中方面隊第4分団	豊中町上高野	鉄骨ブロック 二階	1		
19	豊中方面隊第5分団	豊中町本山	鉄筋コンクリート 二階	1	1	1
20	詫間方面隊第1分団	詫間町松崎	鉄骨造 平屋	1		
21	詫間方面隊第2分団	詫間町詫間(新的場、池尻、桃山、中郷、的場、蟻の首、雇用促進、宮の下、神田下、神田上、田井、マリナーガーデン)、詫間町志々島	鉄筋コンクリート 二階 木造 平屋	1		2
22	詫間方面隊第3分団	詫間町詫間(天満、本村上、本村中、浜田、塩生、塩生ヶ原、高谷、西野団地、松本)	木造 平屋	1		
23	詫間方面隊第4分団	詫間町詫間(須田東、須田西、新浜)、詫間町香田	鉄骨造 平屋	1		
24	詫間方面隊第5分団	詫間町大浜(名部戸)、詫間町大浜(鴨の越、大浜、波止艾、肥地木)	木造 平屋 鉄骨ブロック 二階	1	1	1
25	詫間方面隊第6分団	詫間町大浜(船越、伊佐子)、詫間町積	木造 平屋 鉄骨ブロック 二階		2	2
26	詫間方面隊第7分団	詫間町箱、詫間町生里(生里、仁老浜)	木造、鉄骨造 平屋		2	2
27	詫間方面隊第8分団	詫間町粟島(潟、上新田)	木造 二階、木造 平屋		2	2
28	仁尾方面隊第1分団	仁尾町曾保	軽量鉄骨 二階		1	1
29	仁尾方面隊第2分団	仁尾町(天王、新開、草木、土井、石ヶ谷、江尻、鳶見、南)	鉄筋コンクリート 二階	1		
30	仁尾方面隊第3分団	仁尾町(峠、千代、片山、宿入、中津賀、境目ほか)	第2分団屯所(仁尾町 防災センター)へ仮移転	1	1	1
31	仁尾方面隊第4分団1部	仁尾町(詫間越、朝日、仁尾の上、古江、大北、美浜)	鉄骨造 平屋	1		
	仁尾方面隊第4分団2部	仁尾町家の浦	鉄筋スレート 平屋		1	1
32	財田方面隊第1分団	財田町(屋丹波、別所、黒川、野田原、北地、山才、山王)	木造 平屋		3	3
33	財田方面隊第2分団	財田町(正宗、石野、戸川、芋尾、帰来、荒戸)	〃		2	2
34	財田方面隊第3分団	財田町(雉子尾、久保の下、森、我久)	鉄筋コンクリート 平屋 木造 平屋	1	1	1
35	財田方面隊第4分団	財田町(北野、中元、本篠、山岡、宮尾)	木造 平屋	1		
36	財田方面隊第5分団	財田町(長野、林明、泉平、入樋、吉田、大野地、朝日)	鉄骨造 平屋 木造 平屋		3	3
37						
38						
39						
40						
<b>合計</b>				<b>23</b>	<b>46</b>	<b>48</b>

## 三豊市消防団の沿革

平成18年1月1日、香川県三豊郡の高瀬町・山本町・三野町・豊中町・詫間町・仁尾町・財田町の7町が合併し三豊市が誕生した。これに伴い7町の消防団も統合・再編し、旧町の消防体制を残した7方面隊、44分団、定員1,091名の三豊市消防団が発足した。

- 平成18年 1月 1日 7町合併による三豊市誕生と同時に、旧7町の消防団が統合し三豊市消防団が発足。  
初代団長 藤原 俊治
- 平成19年 6月 5日 香川県知事より竿頭綬受賞
- 平成20年 2月23日 仁尾方面隊第7分団 消防ポンプ車を更新
- 平成21年 9月17日 高瀬方面隊本部分団消防ポンプ車を更新
- 平成21年 9月28日 詫間方面隊第4分団消防ポンプ車を更新
- 平成21年 10月25日 三野方面隊第1分団(久保谷)小型ポンプ付積載車を更新
- 平成21年 10月25日 仁尾方面隊第6分団小型ポンプ付積載車を更新
- 平成22年 2月25日 消防庁長官より消防団等地域活動表彰受賞
- 平成22年 3月28日 三野方面隊第1分団消防ポンプ車を更新
- 平成22年 3月31日 消防庁より救助資機材搭載型消防車両無償貸付
- 平成22年 4月 1日 第2代団長 田中 保志
- 平成22年 10月 3日 山本方面隊第3分団4部小型ポンプ付積載車を更新
- 平成22年 10月17日 仁尾方面隊第5分団小型ポンプ付積載車を更新
- 平成23年 3月24日 詫間方面隊第1分団消防屯所建替
- 平成23年 10月 8日 詫間方面隊第6分団小型動力ポンプ付積載車を更新
- 平成23年 10月 8日 詫間方面隊第7分団小型動力ポンプ付積載車を更新
- 平成23年 10月 8日 詫間方面隊第8分団小型動力ポンプ付積載車を更新
- 平成23年 10月 8日 高瀬方面隊第4分団小型動力ポンプ付積載車を更新
- 平成23年 10月23日 山本方面隊第1分団3部小型動力ポンプ付積載車を更新
- 平成23年 10月23日 山本方面隊第2分団2部小型動力ポンプ付積載車を更新
- 平成23年 11月 3日 山本方面隊第4分団1部小型動力ポンプ付積載車を更新
- 平成24年 9月 9日 香川県消防操法大会(ポンプの部)豊中方面隊優勝
- 平成24年 11月18日 高瀬方面隊第2分団2部小型動力ポンプ付積載車を更新
- 平成24年 11月24日 豊中方面隊第3分団消防ポンプ車を更新
- 平成25年 9月 8日 香川県消防操法大会(ポンプの部)詫間方面隊優勝
- 平成25年 3月10日 三野方面隊第1分団久保谷消防屯所建替
- 平成25年 12月 1日 高瀬方面隊第4分団3部小型動力ポンプ付積載車を更新
- 平成25年 12月 1日 山本方面隊第3分団1部小型動力ポンプ付積載車を更新
- 平成26年 4月 1日 第3代団長 藤川 淳一
- 平成26年 11月 9日 山本方面隊第1分団1部小型動力ポンプ付積載車を更新
- 平成26年 11月 9日 財田方面隊第2分団小型動力ポンプ付積載車を更新
- 平成27年 3月 1日 詫間方面隊第1分団消防ポンプ車を更新
- 平成27年 9月13日 香川県消防操法大会(小型ポンプの部)財田方面隊優勝
- 平成27年 12月13日 山本方面隊第2分団1部小型動力ポンプ付積載車を更新

平成27年 12月13日 財田方面隊第1分団1部小型動力ポンプ付積載車を更新  
平成27年 12月23日 豊中方面隊第4分団消防ポンプ車を更新  
平成27年 12月23日 高瀬方面隊第2分団消防屯所建替  
平成28年 9月18日 香川県消防操法大会(ポンプの部)高瀬方面隊準優勝  
平成28年 11月11日 仁尾方面隊第2分団消防ポンプ車を更新  
平成28年 11月29日 高瀬方面隊第1分団小型動力ポンプ付積載車を更新  
平成28年 11月29日 三野方面隊第3分団小型動力ポンプ付積載車を更新  
平成28年 12月 7日 三野方面隊第3分団消防屯所建替  
平成29年 9月10日 香川県消防操法大会(小型ポンプの部)山本方面隊優勝  
平成30年 3月 4日 財田方面隊第3分団小型動力ポンプ付積載車を更新  
平成30年 3月 4日 財田方面隊第8分団小型動力ポンプ付積載車を更新  
平成30年 3月17日 豊中方面隊第2分団消防ポンプ車を更新  
平成30年 4月 1日 第4代団長 鈴木 朝則  
平成30年 9月16日 香川県消防操法大会(小型ポンプの部)仁尾方面隊優勝  
平成31年 1月12日 山本方面隊第4分団小型動力ポンプ付積載車を更新  
平成31年 3月 8日 消防庁長官より竿頭授受賞  
平成31年 3月16日 仁尾方面隊第4分団消防ポンプ車を更新  
平成31年 3月17日 財田方面隊第7分団小型動力ポンプ付積載車を更新  
令和元年 9月 8日 香川県消防操法大会(ポンプ車の部)詫間方面隊準優勝  
令和元年 11月13日 第24回全国女性消防操法大会で女性部が優良賞(11位)を受賞  
令和元年 12月 8日 高瀬方面隊第3分団小型動力ポンプ付積載車を更新  
令和元年 12月15日 仁尾方面隊第1分団小型動力ポンプ付積載車を更新  
令和2年 2月19日 消防庁より消防ポンプ自動車無償貸付(高瀬方面隊第4分団に配備)  
令和2年 3月 7日 高瀬方面隊第5分団に消防ポンプ車を配備  
令和2年 3月15日 豊中方面隊第5分団消防ポンプ車を更新  
令和2年 3月29日 仁尾方面隊第4分団消防屯所新築  
令和2年 12月 4日 日本消防協会より教育広報事業防災活動車交付  
令和3年 2月28日 財田方面隊第1分団2部小型動力ポンプ付積載車を更新  
令和3年 2月28日 財田方面隊第4分団小型動力ポンプ付積載車を更新  
令和3年 3月 5日 日本消防協会より表彰旗受賞  
令和3年 4月 4日 三野方面隊第3分団消防ポンプ車を更新  
令和3年 4月 7日 詫間方面隊第2分団消防ポンプ車を更新  
令和3年 4月11日 三野方面隊第2分団消防屯所新築  
令和3年 12月19日 財田方面隊第5分団に消防ポンプ車を配備  
令和3年 12月26日 財田町防災センター新築  
令和4年 3月 4日 日本消防協会より竿頭授受賞  
令和4年 3月20日 詫間方面隊第7分団消防屯所新築  
令和4年 4月 1日 第5代団長 塩田 清勝  
令和4年 4月 3日 財田方面隊第6分団2部小型動力ポンプ付積載車を更新  
令和4年 4月17日 山本方面隊第2分団消防屯所新築  
令和4年 9月11日 香川県消防操法大会(ポンプ車の部)三野方面隊準優勝  
令和4年 12月18日 詫間方面隊第3分団消防ポンプ車を更新  
令和5年 1月15日 山本方面隊第2分団4部小型動力ポンプ付積載車を更新  
令和5年 4月 1日 第6代団長 江川 肇

## 旧高瀬町消防団の沿革

江戸の「いろは」47組の火消役のはなばなしは、あまりにも有名であるが、明治以前の高瀬町には、それらしきものは見当たらない。おそらく1894年(明治24年)の勅令により、消防組規則が公布され、続いて同年5月、県令によってその細則が定められ、初めて消防組として組織ができたのである。

当時の消防組には、組頭・小頭・消防手の職種があり、腕用ポンプ1台に消防手が約15名程度配置され、以来1939年(昭和14年)3月まで、警察署長の指揮下のもとに義勇消防として、献身的な奉仕活動が続けられている。

同年4月、消防組はしだいに戦争体制化の進む中で、民間防空自治団体である防護団と合併して「警防団」と改め、第2次世界大戦中には大いに活躍した。

大戦後の1947年(昭和22年)消防組織法により、新しい今日の消防体制ができあがった。1955年(昭和30年)3月31日に、旧5ヶ村(上高瀬・勝間・比地二・二の宮・麻)が合併し、ここに高瀬町消防団が誕生したのである。しかしながら、合併後の機構は、旧村の色彩が強いこともあり、1959年(昭和34年)5月、その機構を改め、定員も350名とした。さらに、1964年(昭和39年)4月、定員183名と改正して現在に至っている。

- 昭和30年 3月31日 初代団長 森 久四郎
- 昭和34年 5月10日 第2代団長 藤田 角良
- 昭和35年 2月11日 日本消防協会会長より竿頭綬を授与される。  
6月 1日 第3代団長 真鍋 常三郎  
10月25日 第4代団長 豊嶋 正則
- 昭和36年 10月30日 第5代団長 秋山 喜代矩
- 昭和38年 9月 4日 第6代団長 白井 義雄
- 昭和46年 2月20日 日本消防協会会長より表彰旗を授与される。  
6月 4日 第7代団長 中岡 茂喜
- 昭和48年 12月 1日 第8代団長 三好 秀義
- 昭和53年 9月23日 香川県消防操法大会出場 優良章受賞
- 昭和58年 5月26日 香川県知事より竿頭綬を授与される。  
9月11日 香川県消防操法大会出場 優良章受賞
- 昭和60年 3月 6日 消防庁長官より竿頭綬を授与される。
- 昭和62年 2月10日 日本消防協会会長より竿頭綬を授与される。
- 平成 4年 9月20日 香川県消防操法大会出場 優秀章受賞  
10月14日 第9代団長 羽野 松夫
- 平成 8年 10月14日 第10代団長 石井 貞男
- 平成12年 10月14日 第11代団長 入江 謙次
- 平成13年 9月 9日 香川県消防操法大会出場 優勝(ポンプ車の部)
- 平成14年 5月 1日 第12代団長 藤原 俊治  
5月31日 香川県知事より竿頭綬を授与される。
- 平成17年 2月10日 日本消防協会会長より竿頭綬を授与される。



## 旧山本町消防団の沿革

昭和30年4月1日香川県三豊郡辻村、河内村、財田大野村及び神田村が合併して新たに山本村が設置されるに伴い、旧村毎に置かれていた消防団も合併して、山本村消防団が設立された。

- 昭和30年 4月 初代団長 田鍋 要 団員350名
- 昭和31年 5月 5日 香川県消防協会長より竿頭綬受賞
- 昭和32年 11月 3日 町制施行に伴い山本町消防団と改称
- 昭和33年 4月 第2代団長 金子 信義 団員323名
- 昭和34年 5月23日 香川県知事より竿頭綬受賞
- 昭和35年 3月 8日 国家消防本部より功労章受賞(伊勢湾台風水害防止活動)
- 昭和37年 2月11日 日本消防協会長より竿頭綬受賞
- 昭和39年 6月 5日 団員155名に改正
- 昭和43年 2月 第3代団長 正田 実 団員155名
- 昭和45年 3月 3日 消防庁長官より竿頭綬受賞
- 昭和49年 4月 7日 第4代団長 正田 精一 団員155名
- 昭和50年 2月25日 日本消防協会長より表彰旗受賞
- 昭和52年 3月 消防庁長官より表彰旗受賞
- 昭和53年 9月 香川県消防操法大会(小型ポンプの部) 優勝
- 10月 第6回全国消防操法大会に出場する。
- 昭和59年 5月26日 香川県知事より表彰旗受賞
- 昭和63年 3月 日本消防協会長より特別表彰纏受賞
- 平成 3年 2月13日 日本消防協会長より竿頭綬受賞
- 平成 7年 4月 1日 第5代団長 田渕 恒雄 団員155名
- 平成10年 5月 香川県知事より竿頭綬受賞
- 平成13年 4月 1日 第6代団長 大藤 春雄 団員155名
- 平成14年 9月15日 香川県消防操法大会(小型ポンプの部) 準優勝

## 旧三野町消防団の沿革

明治27年		公設消防組を設置
昭和14年		消防組を警防団に改める。
昭和22年		大見村消防団、下高瀬村消防団、吉津村消防団が発足
昭和30年		町村合併により三野村消防団が発足
	4月 1日	初代団長 藤田 恒芳
昭和31年		香川県消防協会長より竿頭授受賞 香川県消防操法大会 優勝
昭和33年		四国地区消防操法大会 優勝
昭和34年		第3分団に消防ポンプ自動車を配置
昭和35年		香川県消防協会長より竿頭授受賞
	4月 1日	第2代団長 山下 喜平
昭和36年	4月 1日	第3代団長 石井 栄
	9月 1日	町制施行に伴い三野町消防団が発足
昭和37年		香川県消防協会長より竿頭授受賞
昭和38年	4月 1日	第4代団長 小野 好春
昭和39年	6月 1日	第5代団長 小浜 貢
昭和40年		日本消防協会長より竿頭授受賞 第2分団に消防ポンプ自動車を配置
昭和41年	6月 1日	第6代団長 関子 繁太郎
昭和43年	6月 1日	第7代団長 小野 義秋
昭和46年		第1分団に消防ポンプ自動車並びに可搬ポンプ付積載車を配置
昭和47年	6月 1日	第8代団長 松田 邦利
	12月 1日	第9代団長 吉田 繁義
昭和52年		香川県消防操法大会 最優秀賞受賞
昭和53年		香川県知事より竿頭授受賞
	6月 1日	第10代団長 芳地 邦雄
昭和56年		香川県消防操法大会 最優秀賞受賞
昭和59年	6月 1日	第11代団長 磯崎 福美
昭和60年	2月 8日	日本消防協会長より表彰旗受賞
昭和61年	3月 5日	消防庁長官より竿頭授受賞
昭和63年	6月 1日	第12代団長 藤田 武徳
平成 元年		香川県消防操法大会 優勝
平成 6年	6月 1日	第13代団長 和泉 保良
平成 7年	2月10日	日本消防協会長表彰 竿頭授受賞
平成 9年	6月 1日	第14代団長 小林 寿一
平成10年	9月13日	香川県消防操法大会 優秀賞受賞
平成12年	6月 1日	第15代団長 丸岡 功
平成14年	6月 1日	第16代団長 小野 剛
平成16年	3月 4日	消防庁長官より表彰旗受賞 香川県知事より竿頭授受賞
平成17年	6月1日	第17代団長 嶋田 勲

## 旧豊中町消防団の沿革

- 大正 7年 桑山村・笠田村に消防組が創設され、集落ごとにグループを作り水火災に出動し活躍を始めた。
- 昭和14年 桑山村・比地大村・笠田村・上高野村・本山村の五ヶ村がそれぞれ消防組から警防団に改称
- 昭和26年 昭和22年に笠田村警防団が消防組に改称したのをはじめ、五ヶ村が消防団に改称
- 昭和29年 5月 7日 香川県消防協会長から第3分団竿頭授受賞
- 昭和30年 五ヶ村が合併し、豊中村が誕生。これに伴い同年10月2日に豊中村消防団として発足。  
10月 2日 初代団長 合田 始
- 昭和31年 2月11日 日本消防協会長より竿頭授受賞
- 昭和32年 1月 1日 豊中町消防団に改称  
3月 1日 消防庁長官より竿頭授受賞
- 昭和35年 2月11日 日本消防協会長より表彰旗受賞
- 昭和36年 5月25日 香川県消防協会長より第3分団竿頭授受賞
- 昭和37年 5月23日 香川県知事より竿頭授受賞
- 昭和39年 5月14日 香川県消防協会長より第1分団竿頭授受賞
- 昭和41年 5月31日 香川県消防協会長より第4分団竿頭授受賞
- 昭和42年 5月10日 香川県消防協会長より第2分団竿頭授受賞  
9月25日 第2代団長 石井 登名八
- 昭和43年 5月14日 香川県消防協会長より第5分団竿頭授受賞
- 昭和50年 11月 8日 第3代団長 鳥取 武雄
- 昭和61年 5月24日 香川県消防協会長より第2分団が5ヶ年無火災表彰受賞
- 昭和62年 11月 8日 第4代団長 大江 豊
- 昭和63年 3月 9日 日本消防協会長より竿頭授受賞
- 平成 2年 5月22日 香川県消防協会長より第4分団が3ヶ年無火災表彰受賞
- 平成 3年 3月 6日 消防庁長官より表彰旗受賞  
9月20日 第3分団に消防ポンプ自動車を更新配備  
11月 8日 第5代団長 則包 晴幸
- 平成 4年 6月 4日 香川県消防協会長より第4分団が5ヶ年無火災表彰受賞
- 平成 5年 3月29日 第4分団に消防ポンプ自動車を更新配備  
5月28日 香川県知事より表彰旗受賞  
11月15日 第2分団に消防ポンプ自動車を更新配備
- 平成 7年 6月 6日 香川県知事より竿頭授受賞  
11月13日 第5分団に消防ポンプ自動車を更新配備
- 平成 9年 9月20日 第3分団に小型動力ポンプ付積載車を更新配備
- 平成12年 4月 1日 第6代団長 横田 尚和
- 平成14年 5月31日 日本消防協会長より竿頭授受賞
- 平成16年 2月13日 日本消防協会長より表彰旗受賞
- 平成17年 4月 1日 第7代団長 平尾 武勇  
9月18日 香川県消防操法大会(ポンプ車の部)優勝

## 旧詫間町消防団の沿革

江戸時代は、村内に火災が発生した場合、寺の鐘を乱打して一般に警報するのを慣例とし、一般の人は、鳶口・とうぐわなどを持って消火にあたった。明治20年消防組が発足し、集落ごとに自衛的に小型ポンプ1台を中心にグループを作り、水火災に出動した。大正のはじめそれを統合し、第1・2・3・4の分団に分けて消防組織がととのった。

- 昭和 3年 消防力の向上充実を図るため、公設消防組を改組し、昭和22年それを消防団と改称した。
- 昭和22年 11月 1日 消防組を消防団と改称した。
- 昭和25年 25馬力のガソリンポンプ1台が初めて配備される。
- 昭和26年 5月28日 香川県消防協会長より第8分団が3ヶ年無火災表彰受賞
- 昭和27年 5月20日 香川県消防協会長より竿頭授受賞
- 昭和30年 4月 1日 町村合併と同時に詫間町・荘内村・栗島村の消防団が統合し詫間町消防団として発足。  
初代団長 安藤 清誉
- 5月 1日 第2代団長 吉田 栄吉
- 5月22日 詫間町消防団条例が施行される。定数338名
- 昭和32年 5月12日 香川県消防協会長より竿頭授受賞  
香川県消防協会長より第8分団が4ヶ年無火災表彰受賞
- 昭和33年 6月 4日 香川県消防協会長より第9分団が10ヶ年無火災表彰受賞
- 昭和34年 9月26日 台風15号により町内の港湾護岸に大被害を受ける。
- 昭和35年 3月30日 建設大臣より水防の功績により表彰される。  
6月 3日 香川県消防協会長より第2分団が竿頭授受賞
- 昭和37年 2月11日 日本消防協会長より竿頭授受賞
- 昭和38年 10月 1日 第3代団長 三田 定一
- 昭和40年 4月 1日 第4代団長 横山 永由
- 昭和41年 4月 1日 詫間町消防団条例が改正される。本部分団以下9分団となり定数200名となった。
- 昭和43年 5月14日 香川県知事より竿頭授受賞
- 昭和51年 6月 1日 第5代団長 渡辺 幸男  
9月10日 台風17号により荘内半島全域に被害を受ける。
- 昭和52年 9月24日 防災行政無線電話を設置
- 昭和54年 2月10日 日本消防協会長より表彰旗受賞
- 昭和55年 2月 2日 名部戸地区山林火災発生
- 昭和57年 3月 3日 消防庁長官より竿頭授受賞
- 昭和61年 3月 8日 紫雲出山より出火、12.5ヘクタール焼失
- 昭和63年 6月 1日 第6代団長 村沢 隆  
9月18日 香川県消防操法大会において第3分団ポンプ車の部で準優勝  
12月27日 大浜地区で本町戦後最大の山林火災が発生、105ヘクタール焼失
- 平成 2年 3月 8日 消防庁長官より表彰旗受賞
- 平成 4年 2月13日 日本消防協会長より竿頭授受賞
- 平成 6年 5月26日 香川県消防協会長より第5分団が3ヶ年無火災表彰受賞  
香川県消防協会長より第4分団が5ヶ年無火災表彰受賞
- 平成 8年 6月 1日 第7代団長 真鍋 時敏  
11月28日 大倉工業(株)詫間工場で工場火災発生
- 平成10年 5月31日 香川県消防協会長より第9分団が3ヶ年無火災表彰受賞  
9月16日 名部戸地区林野火災発生、24ヘクタール焼失
- 平成12年 6月 1日 第8代団長 田中 保志  
6月 7日 香川県消防協会長より第9分団が5ヶ年無火災表彰受賞  
香川県消防協会長より第1分団が3ヶ年無火災表彰受賞
- 平成13年 6月 5日 香川県知事より竿頭授受賞
- 平成14年 5月31日 香川県消防協会長より第6分団が3ヶ年無火災表彰受賞  
12月14日 栗島紫谷山林野火災発生、17ヘクタール焼失
- 平成15年 6月 3日 香川県知事より表彰旗受賞
- 平成16年 6月 1日 香川県消防協会長より第6分団が5ヶ年無火災表彰受賞

## 旧仁尾町消防団の沿革

- 明治17年 10月 1日 仁尾村消防組(私設)  
明治27年 2月 1日 仁尾村消防組(公設)  
大正13年 4月 1日 仁尾町消防組(町制施行)  
昭和 3年 11月28日 観音寺警察部長表彰  
昭和 6年 12月28日 初代団長 塩田 要  
昭和 9年 3月 香川県警察部長表彰  
昭和14年 4月 1日 仁尾町警防団と改組  
昭和22年 3月 7日 仁尾町消防団と改組  
昭和25年 10月10日 消防ポンプ自動車トヨタ1951年式配備  
10月28日 第2代団長 森 清義  
昭和26年 1月17日 香川県消防協会長より竿頭授受賞  
昭和31年 3月31日 消防ポンプ自動車ニッサンA級配備  
5月 5日 香川県消防操法大会四輪自動車部優勝  
昭和32年 5月12日 香川県消防操法大会四輪自動車部準優勝  
5月12日 香川県知事表彰  
昭和33年 2月11日 日本消防協会より表彰旗受賞  
9月28日 第1回四国消防操法大会優勝  
昭和34年 2月 8日 第3代団長 中橋 正希  
昭和35年 10月30日 消防ポンプ自動車トヨタA2級配備  
昭和37年 3月 7日 消防庁長官より竿頭授受賞  
昭和43年 12月23日 消防ポンプ自動車トヨタA2級配備  
昭和44年 12月25日 積載車ミニエース配備  
昭和45年 3月 3日 消防庁長官より竿頭授受賞  
10月15日 第2回全国消防操法大会出場  
昭和50年 1月 1日 第4代団長 曾根 将夫  
6月 5日 積載車ダイハツデルタ配備  
9月10日 三豊郡消防操法大会優秀賞  
10月11日 香川県消防操法大会優秀賞(竿頭授)  
10月30日 消防ポンプ自動車トヨタSF-56配備  
昭和51年 5月 5日 積載車ニッサンサニーキャブトラック配備  
11月10日 香川県知事感謝状受賞  
昭和52年 6月 8日 全国防災協会長表彰  
昭和53年 1月 1日 第5代団長 曾根 建夫  
昭和54年 9月23日 香川県消防操法大会優良賞(竿頭授)  
昭和55年 1月 1日 第6代団長 中井 正勝  
昭和59年 1月 1日 第7代団長 浪越 利幸  
11月18日 消防ポンプ自動車CD-1型配備  
昭和61年 2月 4日 日本消防協会長より竿頭授受賞  
昭和61年 9月13日 積載車マツダボンゴワイドロー配備  
昭和61年 9月14日 香川県消防操法大会優良賞(竿頭授)  
昭和63年 4月 1日 第8代団長 真鍋 啓三  
5月25日 香川県知事より表彰旗受賞  
平成 2年 5月22日 香川県知事より竿頭授受賞  
平成 3年 10月31日 消防ポンプ自動車BD-1型配備  
平成 4年 1月 1日 第9代団長 藤田 安  
平成 7年 1月 1日 第10代団長 西山 義夫  
9月17日 香川県消防操法大会優秀賞(竿頭授)  
12月26日 消防ポンプ自動車CD-1型配備  
平成 8年 3月19日 積載車トヨタハイエース配備  
平成12年 4月 1日 第11代団長 楠本 久雄  
7月31日 仁尾町防災センター 落成  
平成14年 2月 8日 日本消防協会より表彰旗受賞  
平成16年 9月12日 香川県消防操法大会優秀賞(竿頭授)  
平成17年 2月10日 日本消防協会長より竿頭授受賞

## 旧財田町消防団の沿革

- 昭和14年 警防団令により消防組の名称を警防団と改称
- 昭和22年 8月 1日 初代団長 大矢 訶吉  
8月 9日 消防団発足 団員250名 腕用手押ポンプ10台
- 昭和27年 可搬動力ポンプを第3分団へ配属
- 昭和28年 可搬動力ポンプを第4・8分団へ配属
- 昭和29年 4月 1日 第2代団長 滝頭 春雄  
可搬動力ポンプを第2分団へ配属
- 昭和33年 4月 1日 第3代団長 久保 一実  
4月 可搬動力ポンプを第1分団へ配属  
6月 可搬動力ポンプを第5分団へ配属  
9月 可搬動力ポンプを第6分団へ配属
- 昭和35年 2月 可搬動力ポンプを第7分団へ配属
- 昭和36年 10月 可搬動力ポンプを第6分団へ配属
- 昭和37年 4月 1日 第4代団長 岡崎 政廣
- 昭和39年 10月 可搬動力ポンプを第1分団へ配属
- 昭和43年 3月 7日 日本消防協会会長より竿頭綬受賞
- 昭和47年 12月 1日 第5代団長 松本 勝
- 昭和51年 7月 1日 第6代団長 行成 利徳  
消防積載車を第6分団へ配属
- 昭和53年 5月26日 香川県知事より竿頭綬受賞  
消防積載車を第1・2・3分団へ配属
- 昭和54年 消防ポンプ車を本部分団へ配属  
消防積載車を第4・5・7・8分団へ配属
- 昭和55年 5月17日 香川県知事より表彰旗受賞  
消防積載車を第1・6分団へ配属
- 昭和58年 3月 2日 消防庁長官より竿頭綬受賞
- 平成 元年 2月10日 日本消防協会会長より表彰旗受賞
- 平成 4年 4月 1日 第7代団長 角岡 昌  
8月 本部分団 消防ポンプ車を更新
- 平成 5年 2月16日 日本消防協会会長より竿頭綬受賞
- 平成 6年 5月26日 香川県知事より竿頭綬受賞  
11月 4日 小型ポンプ積載車を第1分団1部及び第2分団へ配属
- 平成 7年 10月22日 小型ポンプ積載車を第3分団及び第4分団へ配属
- 平成 8年 10月26日 小型ポンプ積載車を第5・7・8分団へ配属
- 平成 9年 1月12日 三豊地区消防連合会会長より竿頭綬(1年間無火災)受賞  
10月24日 小型動力ポンプ積載車を第1分団2部及び第6分団2部へ配属
- 平成11年 1月10日 三豊地区消防連合会会長より竿頭綬(1年間無火災)受賞  
3月 5日 消防庁長官より表彰旗受賞
- 平成12年 9月10日 香川県消防操法大会(小型ポンプの部)優勝
- 平成13年 1月14日 三豊地区消防連合会会長より竿頭綬(1年間無火災)受賞
- 平成16年 1月11日 三豊地区消防連合会会長より竿頭綬(1年間無火災)受賞  
4月 1日 第8代団長 谷川 利行
- 平成17年 3月 6日 本部分団 消防ポンプ車を更新